

第 1 回地域検討会（沖縄県）での指摘事項に対する対応（案）

(1)全体計画

1	<p>【指摘】検討会が年に 3 回しかなく、それぞれの検討会は調査を行った上で議論をすると思うが、検討事項が多いため、全てを扱うと個々の検討事項が浅くて広くなる。論議が浅くならないように計画的に議論を配分していただきたい。</p> <p>【対応】できるだけテーマごとに集中できるように座長と調整して検討していく。</p>
2	<p>【指摘】2 年のデータから得られるものは貴重だが、他の人々もデータを持っている。それらも事務局で収集して利用して欲しい。</p> <p>【対応】概況調査においてデータを収集していく。</p>

(2)概況調査

1	<p>【指摘】以前ヘリを飛ばしてみたが、漂着ゴミの見える範囲に限られる。マングローブ林がはるかに多く、上から見るだけでは正確なものにならない。ゴミは長年にわたって漂着しているので、砂の中に埋もれている。写真だけでははっきり分からないので良く考えたほうが良い。</p> <p>【対応】既存の調査・研究事例を基に補完する。また、マングローブ林の中の漂着ゴミについては、論議の上必要であれば来年度のその他調査で取扱う。</p>
2	<p>【指摘】西表島は国有林が多く、またマングローブ林の中は、貴重な生態系が存在することから安易に調査に入ることは難しい。したがって林野庁が検討メンバーに入るべきと考える。</p> <p>【対応】第二回の検討会から林野庁 九州森林管理局 沖縄森林管理署に参加して頂く。</p>

(3) クリーンアップ調査及びフォローアップ調査

1	<p>【指摘】モデル調査の 2 つの海岸だけでなく、この調査結果を八重山諸島の漂着ゴミ防止、処理、回収に生かしていくことが必要である。他の島々に対しても、この調査で得られた結果、方針を活かしていく事で漂着ゴミ対策について大きな流れが作られていくことを期待。</p> <p>【対応】この度のモデル地域における調査により得られた知見は、他の地域においても有用であると考えており、成果の普及に努めていきたい。</p>
2	<p>【指摘】沖縄はサンゴ礁の海なので、砂浜では礫と砂が結構混ざっている。ビーチクリーナーが礫と砂を完全に分離するようなものであれば、逆に物理的性状が破壊されて砂が流出しかねない。礫を取らずにゴミだけをとる方法を検討してほしい。ビーチクリーナーの利用は生態系への問題もあるので、地元の自治体と調整して検討してほしい。</p> <p>【対応】検討会后、事務局と自治体で調整した結果、ビーチクリーナーは使用しないこととした。</p>

3	<p>【指摘】竹富町では、発泡プラスチックの容量が問題になり、海上輸送が問題である。町としてできるだけ減容して、コストを抑えたい。そのため、溶融機の導入を提案した。</p> <p>【対応】第1回のクリーンアップ調査には、間に合わないので、第2回以降の導入を検討する。第1回調査では、発泡スチロールは産廃業者に処理を委託する。導入するためにはレンタル、リース等の手段があるが、現在のところレンタル可能な業者は見つかっていない。現在導入方法を検討中。</p>
4	<p>【指摘】漁協では以前から平久保の海岸を中心に海浜清掃を実施している。過去に、一度に大量のゴミが漂着したことから石垣市の水産課へ重機と運搬用のトラックを海岸へ導入する計画について相談したことがあったが、全て人力で回収して欲しいとの回答を得ている。漂着ゴミの回収に機械類の導入は難しいのではないかと。</p> <p>【対応】現在のところ、海岸への車両及び重機導入の計画はないが、仮に今後その必要性が生じた場合には、検討会での議論、関係機関との調整を十分に行った上で導入の可否を判断する。</p>
5	<p>【指摘】昔、県に流木が大量に漂着して重機を入れたことがある。浜に入れるために防潮林を開いた。ここから雨が入り込んで砂が流出した。台風時に砂が入ってくることもある。機械を入れるときは考える必要がある。</p> <p>【対応】本事業では、道路の整備は対象外である。しかし、防潮林の伐採の影響は、情報として報告書に反映させる。</p>
6	<p>【指摘】ゴミも資源なので、元の資源に戻して、循環型にしていくのがよい。今後ゴミと見ずに資源と見たほうが良い。ゴミを資源に戻す。ゴミがお金になる方法を考えたほうが良い。いま、石垣で一業者が石油に変えようという事業をやっており、皆でゴミを減らすことを考えていく必要がある。</p> <p>【対応】ペットボトルなどの再資源化には、技術的・経済的に問題が残っている。これらの問題点についてとりまとめ、報告書に反映させる。</p>
7	<p>【指摘】ゴミの資源化には、塩を含むこと、色々なものが混じっていることなど現実的な問題がある。発泡プラスチックを石油に戻すことと有効利用はまた別の話だが、こういうことも少し考慮しながら、最後にまとめていくのが良いのではないかと。</p> <p>【対応】ご指摘の点も踏まえて、調査結果をまとめていきたい。</p>
8	<p>【指摘】(事務局提案の不整地運搬車導入に対して)不整地運搬車の導入については、キャタピラは全体で地面を抑えて通っていくので、これで進むのは良い。タイヤは生物をつぶすので良くない。</p> <p>【対応】キャタピラにも金属製、ゴム製など様々なものもあり、車体重量との関連もあるので、砂浜に車両を進入させる場合は、十分な検討を行い車両の種類を選定する。(キャタピラの方が、影響が少ないとの発言に対し、検討会後に慎重に検討すべきとの意見が提示されている。現在のところ、クリーンアップ調査への不整地運搬車の導入に関しては具体的な検討は行っていない)</p>

9	<p>【指摘】(事務局提案のリヤカー導入に対して)砂浜によるが、リヤカーは今までよく使っている。締まった浜を通るのは良いが、やわらかいところは大変である。リヤカーは結構役に立っている。</p> <p>【対応】第1回クリーンアップ調査では、石垣島及び西表島それぞれに2台のリヤカーを導入し、有効に活用した。</p>
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4)その他の調査

1	<p>【指摘】(その他調査「観光資源の価値向上」について)</p> <p>観光資源価値の評価手法はいくつかあるが、評価の目的によって手法が異なってくる。その目的をはっきりさせるため調査の前段階で、時間、手間をかけてよく検討し、後の評価が無駄にならないよう進めて欲しい。</p> <p>価値観としての価値を知りたいのか、観光資源として利用された場合の経済的なものの価値を知りたいのか。目的を明確にしてほしい。この調査は「観光資源価値」とあるので、観光資源として利用される場合、どのような価値になるのかということを考えている。</p> <p>【対応】自治体からはゴミの回収費用に見合うだけの観光資源価値の向上があるかどうかの評価を求められていると理解している。</p>
---	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5)全体を通じての質疑応答

1	<p>【指摘】現在、漂着ゴミの清掃には、多くのボランティア協力をお願いしているのが現状である。沖縄県は住民の意識が高く、多くの住民が参加してくれている。この事業では、事業内容をマスコミやHPで公表し、住民など多方面から意見をとりあげ、より良い事業になるよう努力して欲しい。</p> <p>【対応】環境省HPにおいて、当事業の調査内容や検討会議事概要の公表を行っており、地域検討会も公開している。引き続き、地域検討会において、地元意見を取り上げて行きたい。</p>
2	<p>【指摘】近隣諸国由来のゴミが漂着しており、清掃は自治体及びボランティアだけの取り組みでは限界がある。こういう事業が2ヵ年だけで終わるのではなく、これから継続して行って欲しい。</p> <p>【対応】この事業では、2年間で調査対象地域の漂着ゴミ対策のあり方を検討するものであり、その中で漂着ゴミの回収については、効果的な清掃運搬処理の手法を検討することが目的となっている。この事業期間は2年であるが、その後も諸外国との連携や情報交換等を通じて、地域及び周辺各国を含め、この問題に取り組んで行きたいと考えている。</p>